

中日ニュース

シネスコ版

新刊) ニュース No 346
新巻 No 174
中日 = ニュース No 187
本誌 = 同じ

No. 5 1 1 38. 11. - 1

一、秋の国体ひらく

——山口

第十八回山口県国体秋季大会は、絶好秋日和に恵れた十月二十七日、天皇、皇后両陛下をお迎えして開かれました。

参加選手は沖繩を先頭に力強い歩調で入場行進。

会場は、最終ランナー地元山口県の誇る貞永選手のかかげる聖火に最高潮に達したのです。明けて二十八日競技は各会場で一斉に火ぶたが切られました。

鍛えに鍛えたこの一年間の総決算、来年の東京オリンピックへの登竜門なのです。

一、ミサイル登場

——自衛隊観閲式

自衛隊記念日の十月二十七日、東京明治神宮外苑絵画館前広場で恒例の陸海空三自衛隊の観閲式。陸海空四千七百人が折からの雨にぬれながら堂々たる行進。それに続いて火炮百二門、ロケット十三基、戦車四十二両など従えた機械化部隊が観閲台上を進みます。なかでも初登場のミサイル「ナイキアジャックス」は見物人の注目を集めていました。

一、現代に生きる「クジラ博士」

冬が近づくとともに江の島にはもうひと頃の賑いはない。しかしここマリナランドの中だけは物珍らしいイルカの曲芸を見物する人が後を絶たない。八年前わが国最初のマリナランドとして誕生し、その規模とイルカの名演技は日本一だと自負している。これは飼育係のイルカへの愛情と努力が実ったから。私はこの飼育係長中島将行、イルカはもとより鯨類に関する知識は人並より広いつもりである。イルカは可愛い動物だ。朝晩のエサづけ、調教と生活を共にしていると、夫々の個性が発見できる。『ロビン』はせいかなな面構へ。おっとりしたものもある。先頃この研究が実って『博士』号を得た。人呼んで「クラシ博士」。毎日、イルカとの交流が一段落つくと水槽の下にある研究室で私の発見した新種イルカの研究に余念がない。これがなければ学会提出のレポートも直ぐ出来上がるのです。

6430R

378

98

167